

第7章 これまで、そして、現在の生き方

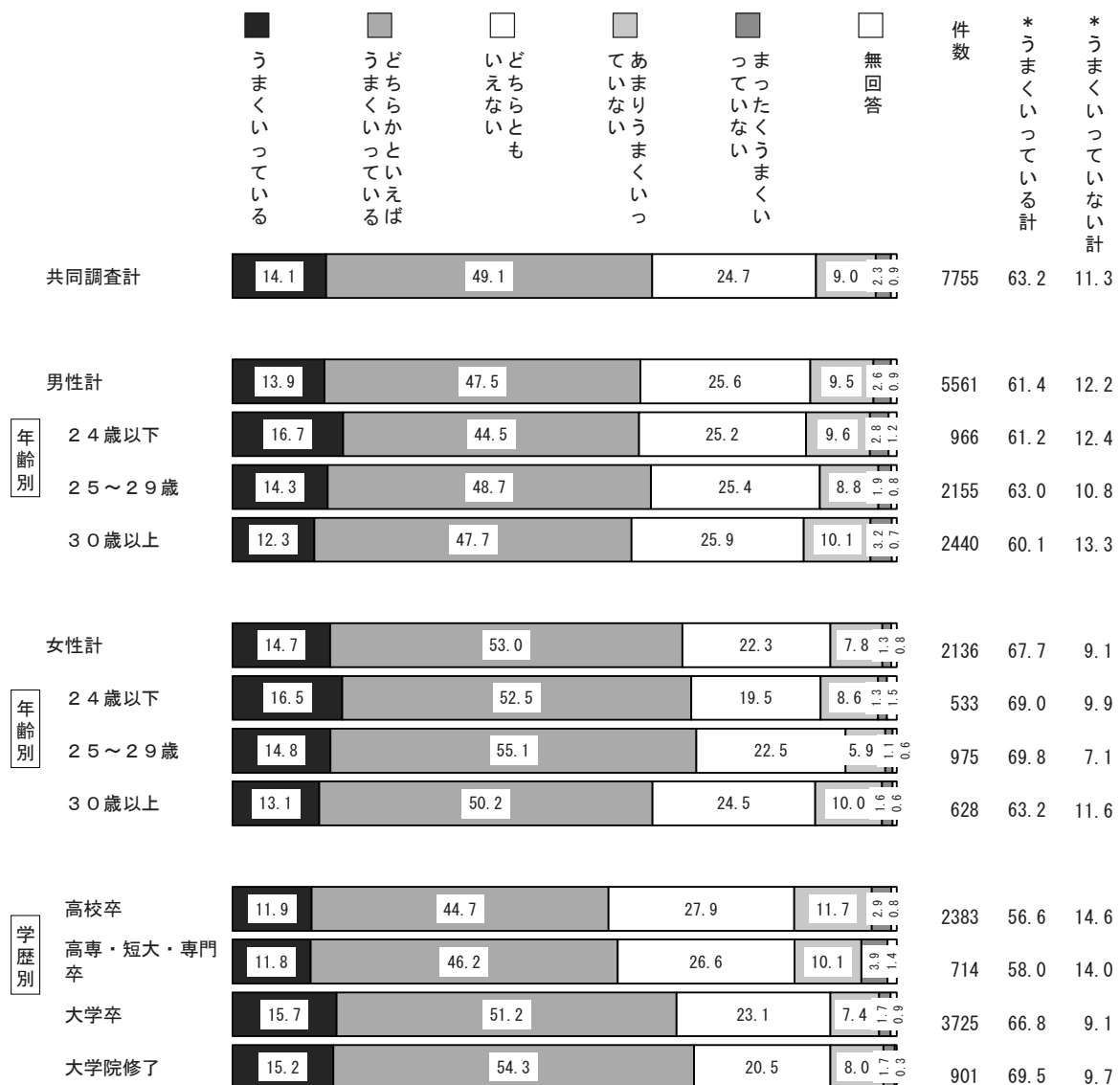
本調査の対象としている35歳以下の若者は、概ね1990年から2007年に生まれている。バブル崩壊以降の経済的に停滞した社会を生きてきた人たちである。また、30代前半はリーマンショック後の採用抑制のために就職が難しかった時期、他方、20代前半は売り手市場となり、それまでに比べれば就職しやすくなった時期に学校を卒業して働きはじめている。若者のこれまで、そして、現在の生き方への評価をみていく。

1. これまでの生き方に対する全体的評価

“これまでの生き方を振り返ってみて、全体的にみて、うまくいっていると感じますか、それとも、うまくいっていないと思いますか”とたずねると、「うまくいっている」(14.1%)、「どちらかといえばうまくいっている」(49.1%)をあわせた＜うまくいっている＞が63.2%である。他方、＜うまくいっていない＞は11.3%である。就職し、現在、働いている人が調査対象であることを考慮する必要があるが、これまでの生き方について肯定的にみている人のほうが多い(第7-1図)。

年齢等によって就職活動期の状況は異なるものの、＜うまくいっている＞が多いことは性別や年齢に関係なく共通している。ただ、学歴別にみると、大学卒や大学院修了で＜うまくいっている＞が全体を上回る。

第7-1図 これまでの生き方を振り返ってみた全体的な評価



肯定的な評価は世帯形成と関連している。

年齢とともに配偶者、子どもがいるケースが増えていくので第7-1表は30歳以上のみの集計としている。男女ともに配偶者がいること、さらには子どもがいることが全体的評価につながっている。

2. 現在の自身を成り立たせているもの

これまでの生き方を肯定的にみている人が多いが、それはどのような背景から成り立っているのだろうか。第7-2図にあげる7つの要素について、それぞれ「プラスに影響した」から「マイナスに影響した」のなかからひとつ選んでもらった。

いずれも「マイナスに影響した」は少ないので「プラスに影響した」をみると、これが多いのは、[人とのつながり・人脈] (60.7%)、[自身の頑張り・努力] (56.1%)、[家庭環境] (55.1%)、[性格・才能] (49.5%) でいずれも5～6割である。現在の自身は、[人とのつながり・人脈] [自身の頑張り・努力] など自身が生きるなかで獲得してきた要素と同等に、[家庭環境] [性格・才能] といった生まれもった要素を「プラスに影響した」と捉えている。

他の、[自分自身の性別] [景気・経済の状況] は、いずれも「どちらともいえない」(それぞれ58.4%、63.0%) が最も多い。

なお、先天的、後天的、いずれの要素にも該当しない「運」は「プラスに影響」が45.4%である。現在の自身が偶然のもと成り立っているという認識も少なくない。

第7-1表 これまでの生き方を振り返ってみた全体的な評価

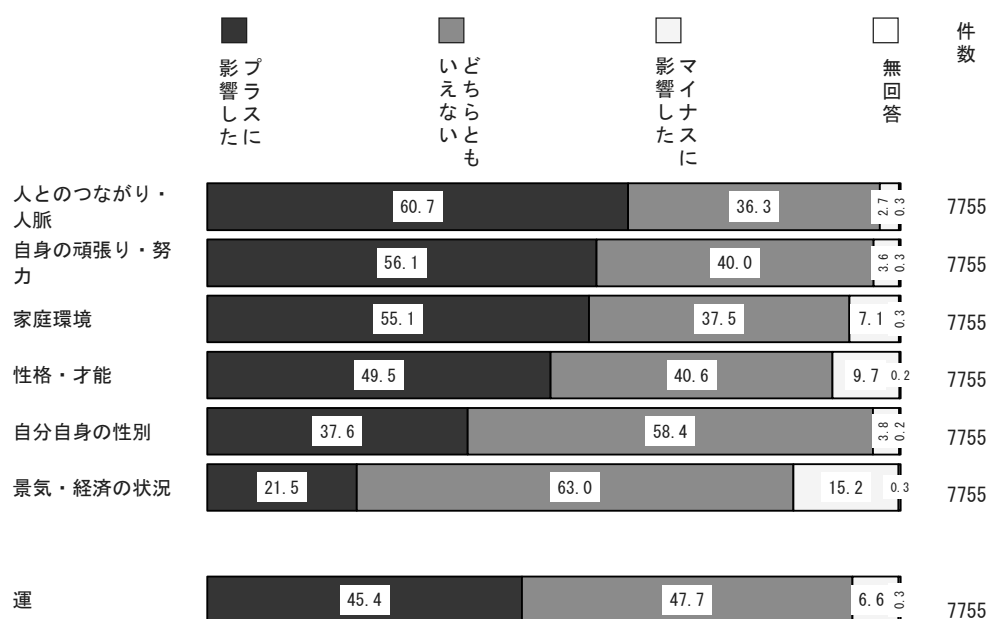
	*うまく いっている 計	どちらとも いえない	*うまく いっていない 計	無 回 答	件 数
共同調査計	63.2	24.7	11.3	0.9	7755
男性30歳以上計	60.1	25.9	13.3	0.7	2440
配偶者はいない	46.5	30.4	22.2	0.9	1008
配偶者がいる	69.7	22.8	7.0	0.6	1428
子どもはいない	66.7	25.6	7.2	0.5	433
子どもがいる	71.1	21.5	6.8	0.6	991
女性30歳以上計	63.2	24.5	11.6	0.6	628
配偶者はいない	55.1	26.1	18.0	0.7	283
配偶者がいる	70.1	23.0	6.4	0.6	344
子どもはいない	66.1	26.3	7.6	...	171
子どもがいる	74.0	19.7	5.2	1.2	173

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上少ない

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上多い

15.0 「共同調査計」より15ポイント以上多い

第7-2図 現在の自身を成り立たせているもの



これまでの生き方に対する全体的な評価別に「プラスに影響した」をみたのが第7-2表である。当然といえるが「うまくいっている」と捉えている場合には、すべての項目で「プラスに影響した」の比率が高い。なかでも先天的な要素である「性格・才能」（「プラスに影響した」65.1%）が全体と比べると多い。ただし、「うまくいっている」と捉えている場合にも、「運」を57.9%があげている。現在の成功は、先天的、後天的な両要素が影響しているが、同時に、偶然の結果とも捉えている。

第7-2表 現在の自身を成り立たせているもの（「プラスに影響した」の比率）

	人脈とのつながり・	力自身の頑張り・努	家庭環境	性格・才能	自分自身の性別	景気・経済の状況	運	件数
共同調査計	60.7 ①	56.1 ②	55.1	49.5	37.6	21.5	45.4	7755
* うまくいっている計	72.0 ①	69.1 ②	66.3	65.1	45.7	27.8	57.9	4898
どちらともいえない計	42.6 ①	36.9 ②	38.3 ②	25.1	23.7	10.6	25.2	1913
* うまくいっていない計	37.7 ①	25.7 ②	29.0 ②	15.5	21.7	8.7	19.5	876

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上少ない

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上多い

15.0 「共同調査計」より15ポイント以上多い

※丸数字は比率の順位(第2位まで表示)

他方、「マイナスに影響した」をみたのが第7-3表である。こちらは「うまくいっていない」と捉えている場合に「マイナスに影響した」が多くなる。このなかでは、「性格・才能」（38.9%）、「景気・経済の状況」（33.8%）が目立つ。それに対し、「運」は27.4%である。これまでの生き方を否定的に捉えている場合、それは「運」というよりも、先天的なもの（「性格・才能」）や社会の状況（「景気・経済の状況」）による影響と捉えられている。

第7-3表 現在の自身を成り立たせているもの（「マイナスに影響した」の比率）

	人脈とのつながり・	力自身の頑張り・努	家庭環境	性格・才能	自分自身の性別	景気・経済の状況	運	件数
共同調査計	2.7	3.6	7.1	9.7 ②	3.8	15.2 ①	6.6	7755
* うまくいっている計	0.8	1.1	4.0 ②	3.7	2.1	10.7 ①	2.4	4898
どちらともいえない計	3.7	3.2	7.3	11.7 ②	4.3	18.5 ①	8.2	1913
* うまくいっていない計	11.8	18.8	24.2	38.9 ①	11.9	33.8 ②	27.4	876

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上少ない

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上多い

15.0 「共同調査計」より15ポイント以上多い

※丸数字は比率の順位(第2位まで表示)

「プラスに影響した」「マイナスに影響した」を性別年齢別にみたものが第7-4表である。

「プラスに影響した」を性別にみると、女性では「自身の頑張り・努力」(63.7%)にくわえ、「運」(50.6%)を男性よりもあげている。なお、「自分自身の性別」は男女で違いがみられない。「マイナスに影響した」をみても同様である。

学歴別は大学卒もしくは大学院修了で、「自身の頑張り・努力」「家庭環境」が「プラスに影響した」が多い。ただし、大学卒もしくは大学院修了は、「運」が高校卒と比べて多いことも特徴である。生まれや努力が成功の基盤として意識されているが、同時に、偶然の結果であることも意識されている。

第7-4表 現在の自身を成り立たせているもの

		「プラスに影響した」の比率							「マイナスに影響した」の比率							件数
		脈人とのつながり・人	自身の頑張り・努力	家庭環境	性格・才能	自分自身の性別	景気・経済の状況	運	脈人とのつながり・人	自身の頑張り・努力	家庭環境	性格・才能	自分自身の性別	景気・経済の状況	運	
共同調査計		60.7	56.1	55.1	49.5	37.6	21.5	45.4	2.7	3.6	7.1	9.7	3.8	15.2	6.6	7755
年齢別	男性計	60.0	53.2	54.6	48.6	37.8	22.7	43.4	2.8	4.1	6.7	9.7	2.9	15.2	7.7	5561
	24歳以下	63.5	52.3	55.6	46.7	42.5	22.7	41.4	2.4	4.9	6.3	10.2	3.1	13.8	9.8	966
	25～29歳	62.4	54.6	56.7	51.6	39.2	24.1	46.5	2.7	4.1	6.4	8.4	3.1	13.6	6.2	2155
	30歳以上	56.4	52.3	52.4	46.7	34.7	21.5	41.3	3.1	3.8	7.0	10.6	2.7	17.2	8.1	2440
年齢別	女性計	62.9	63.7	56.5	52.0	37.5	18.4	50.6	2.5	2.5	8.3	9.7	5.8	14.9	3.8	2136
	24歳以下	62.1	62.1	57.0	50.1	40.2	19.5	47.1	2.8	3.4	7.5	9.4	4.5	13.9	4.9	533
	25～29歳	64.7	65.4	57.5	54.9	38.1	18.6	51.8	2.5	1.9	7.7	9.5	5.5	13.7	3.4	975
	30歳以上	60.7	62.4	54.3	49.2	34.2	17.4	51.8	2.2	2.7	9.9	10.2	7.2	17.7	3.7	628
学歴別	高校卒	59.3	48.6	44.1	44.2	39.4	18.3	35.0	2.8	4.3	8.6	9.1	3.0	17.1	9.4	2383
	高専・短大・専門卒	55.6	47.8	48.0	42.7	36.0	20.2	41.7	3.9	4.1	10.6	11.8	4.2	15.3	8.8	714
	大学卒	62.4	60.4	61.0	53.5	37.3	22.3	50.4	2.5	3.4	5.9	9.0	3.8	14.6	4.8	3725
	大学院修了	61.6	64.6	65.1	52.4	35.2	28.5	55.0	2.4	2.6	6.0	12.2	5.4	12.4	5.1	901

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上少ない

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上多い

15.0 「共同調査計」より15ポイント以上多い

3. 時間の自由度とタイムパフォーマンス

現在の生活について、時間、支出の自由度の2つを取り上げた。

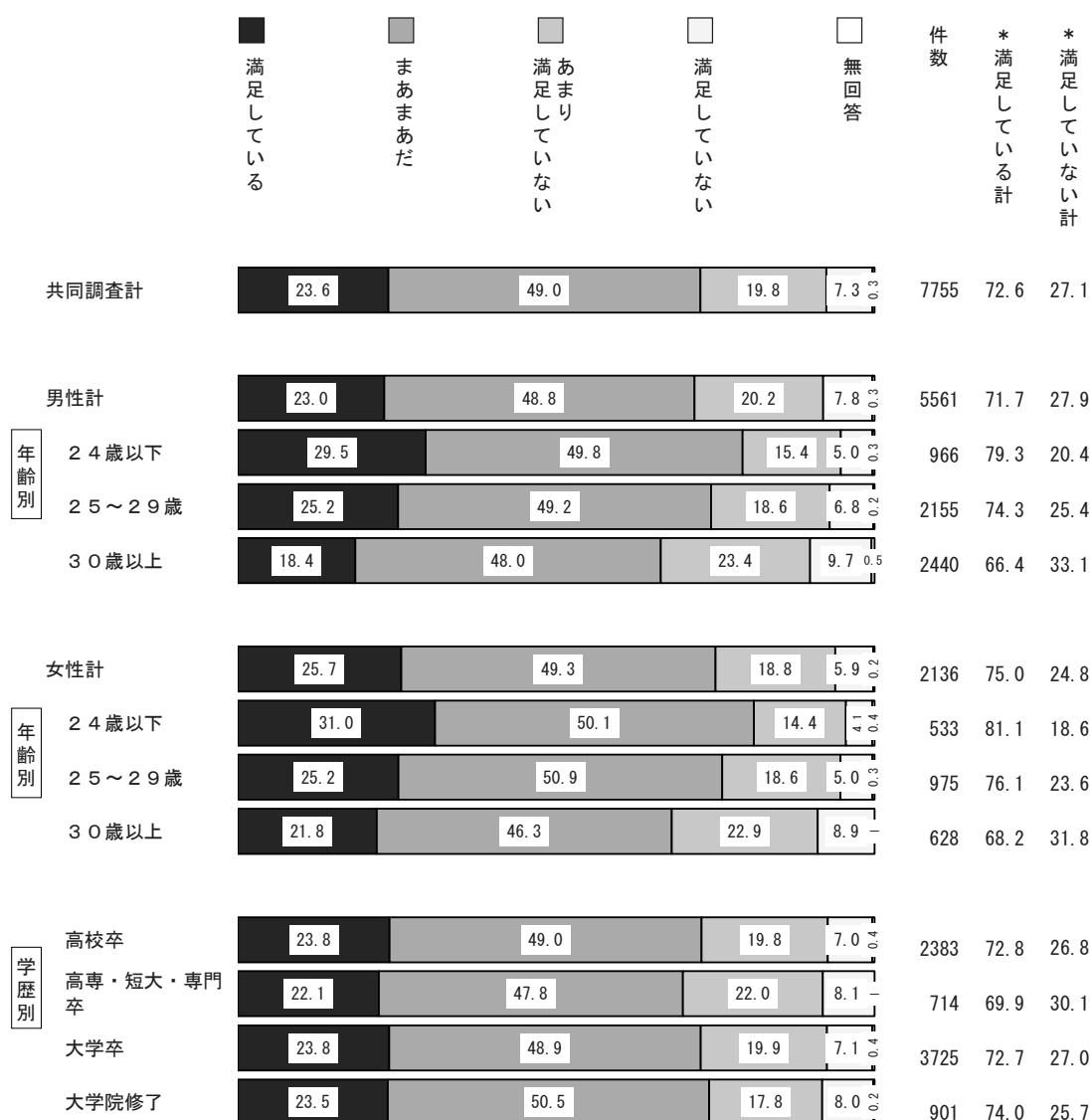
(1) 自分で自由に使える時間の満足度

自分で自由に使える時間の満足度は、「満足している」(23.6%)、「まあまあだ」(49.0%)をあわせると<満足している>が72.6%である。「あまり満足していない」(19.8%)、「満足していない」(7.3%)をあわせたと<満足していない>(27.1%)を大きく上回る(第7-3図)。

ただし、男女ともに若者のなかでも年齢が高くなるほど<満足している>は少なくなっていく。

このような自由に使える時間の満足度を左右する要素として、働き方(残業時間)、世帯形成の状況がある。

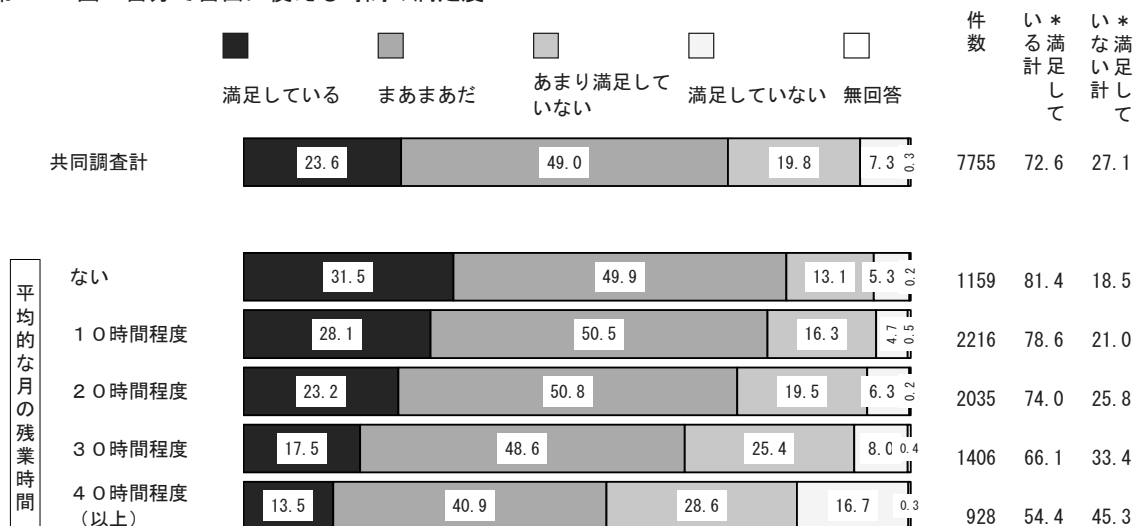
第7-3図 自分で自由に使える時間の満足度



①働き方（残業時間）と自由に使える時間

残業時間との関係を見ると、残業時間が増えるほど、＜満足している＞が少なくなっていく。残業がなかったり、月10時間未満であれば8割が＜満足している＞が、月40時間程度（以上）になると54.4%にまで落ち込む。長時間におよぶ残業は、自由に使える時間を侵食している（第7－4図）。

第7－4図 自分で自由に使える時間の満足度

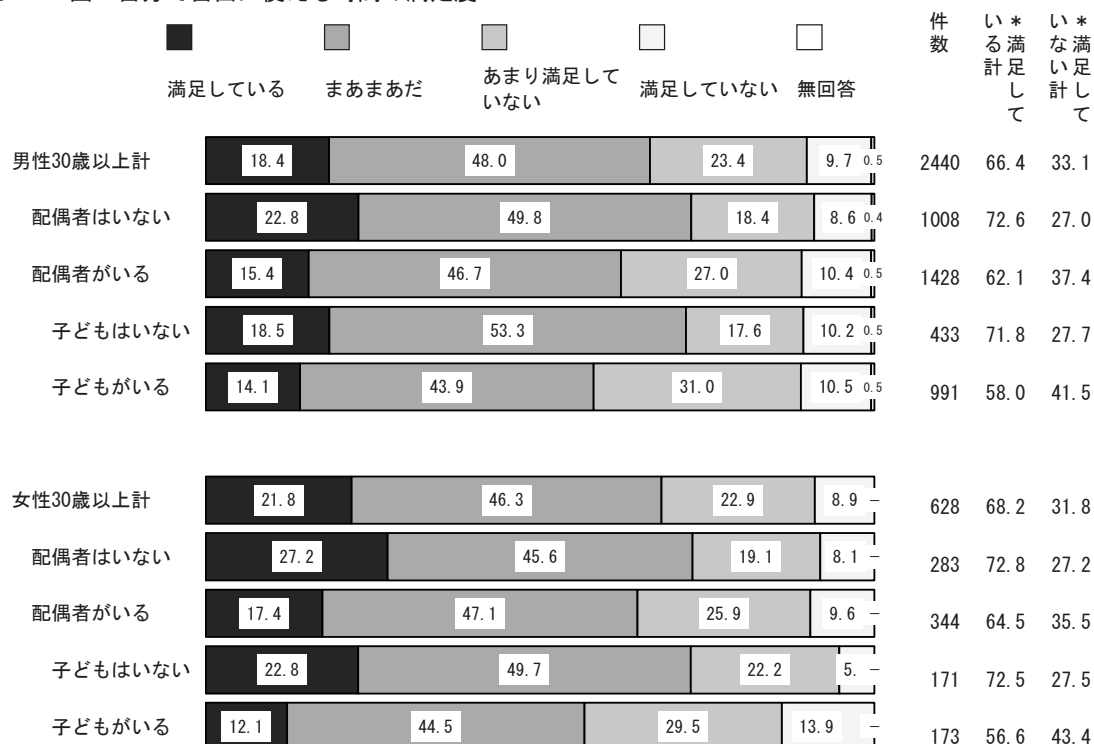


②世帯形成と自由に使える時間

男性30歳以上の＜満足している＞は、配偶者はいない（72.6%）、配偶者がいる（子どもはいない）（71.8%）で高く、配偶者がいる（子どもがいる）（58.0%）で低くなる。女性30歳以上も同様に、配偶者がいる（子どもがいる）（56.6%）で自由に使える時間の満足度が低くなる（第7－5図）。

子どもがいることは、これまでの生き方に対する全体的評価は高めるが、自分で自由に使える時間の満足度は低下することになる。

第7－5図 自分で自由に使える時間の満足度



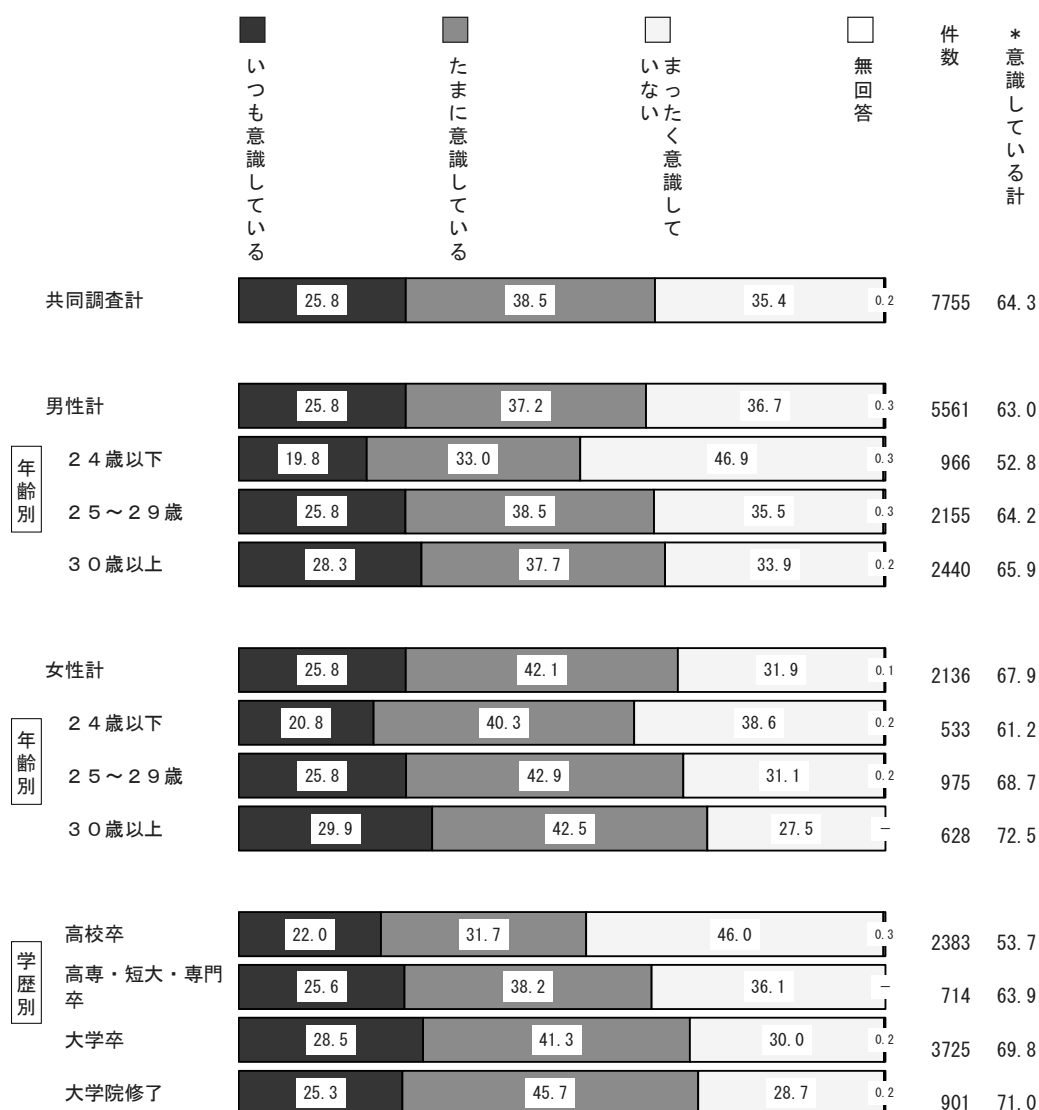
（２）タイムパフォーマンスを意識すること

タイパ（タイムパフォーマンス）という言葉は2010年代半ばに使われはじめ、2020年代に入ってから特にZ世代の行動原理を象徴する言葉として注目されるようになってきた。

“日ごろの生活でタイムパフォーマンス（なるべく無駄なことはせず時間を効率的に使うこと）を意識していますか”とたずねると、「いつも意識している」が25.8%、「たまに意識している」が38.5%で、これらをあわせると＜意識している＞が64.3%である。タイムパフォーマンスを意識する人のほうが多く、そのなかでは「いつも」という人も少なくない（第7－6図）。

＜意識している＞は若者のなかでも年齢が高いほど多い。また、学歴別にみると、高校卒と比べて大学卒または大学院修了で多い。

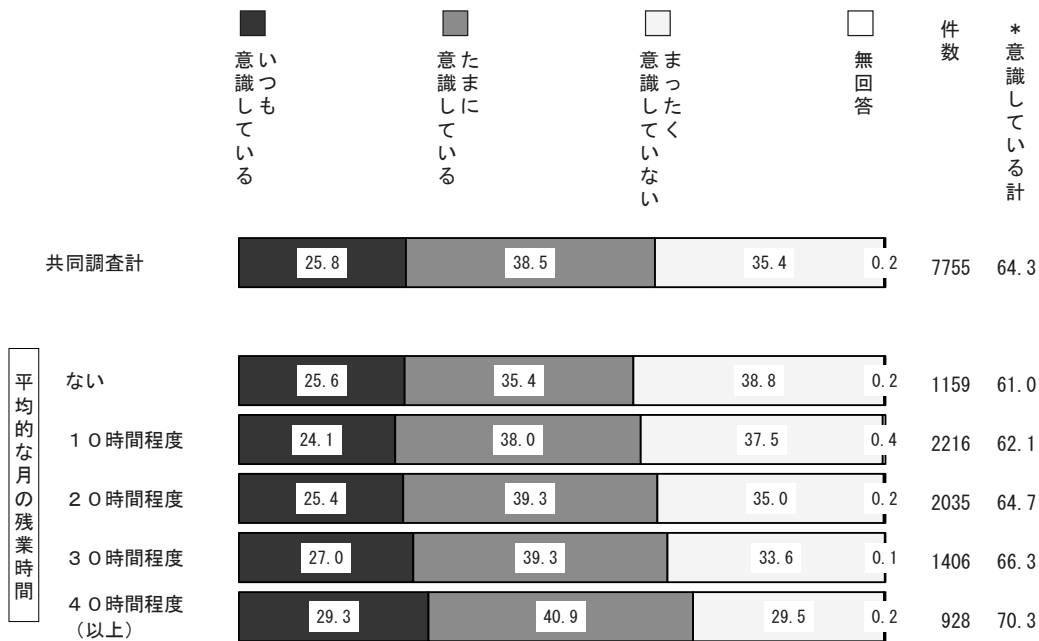
第7－6図 日ごろの生活でタイムパフォーマンスを意識しているか
（タイムパフォーマンス：なるべく無駄なことはせず時間を効率的に使うこと）



①働き方（残業時間）とタイムパフォーマンス

残業時間が長くなるほど生活時間における制約は多くなる。タイムパフォーマンスについての考え方をみても、残業時間が長いほど＜意識している＞が多くなる傾向がみられる。ただし、残業が「ない」「10時間未満」であっても、＜意識している＞は6割ある。タイムパフォーマンスは残業時間の長さにかかわらず意識される行動原理となっている（第7-7図）。

第7-7図 日ごろの生活でタイムパフォーマンスを意識しているか
（タイムパフォーマンス：なるべく無駄なことはせず時間を効率的に使うこと）



②世帯形成とタイムパフォーマンス

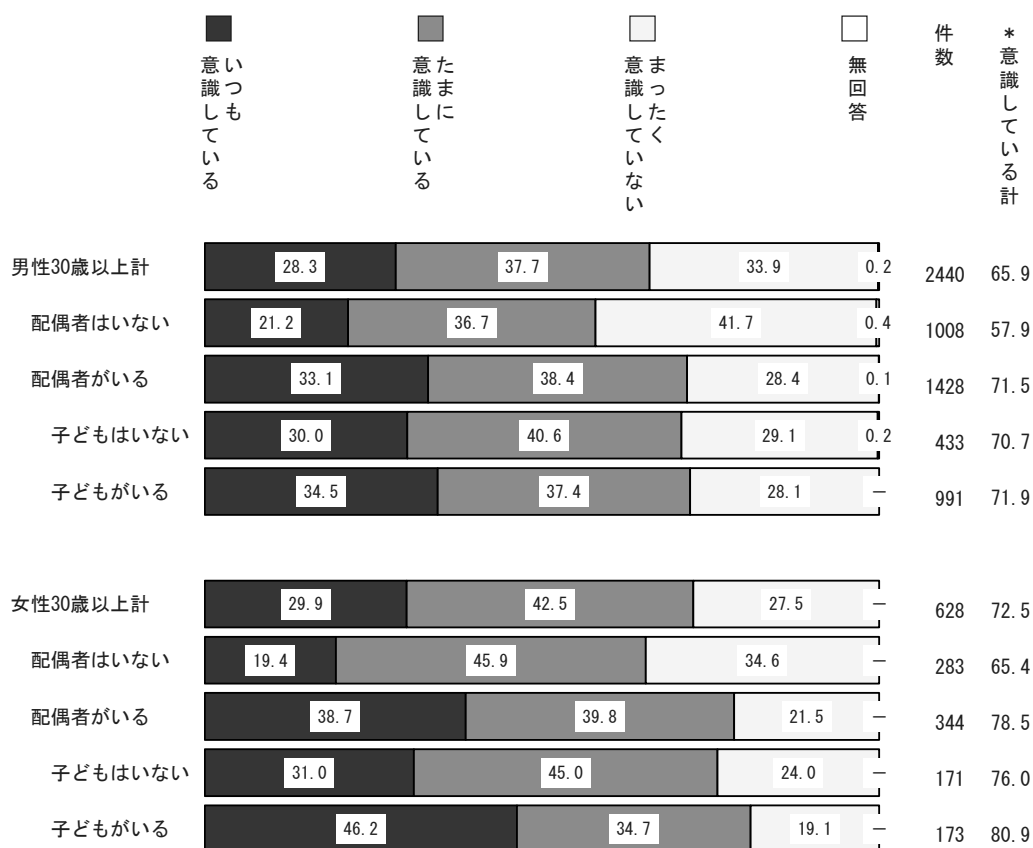
配偶者や子どもの有無は、タイムパフォーマンスの意識と関連している。30歳以上について世帯形成の状況別にみたものが第7－8図である。

男性30歳以上のうち、配偶者はいない「いつも意識している」が21.2%であるのに対し、配偶者がいるは33.1%である（子どもの有無による差は小さい）。

女性30歳以上も、配偶者はいない「いつも意識している」（19.4%）が少ないが、配偶者がいるは38.7%になる。女性は子どもの有無による差も大きく、子どもがいると46.2%に高まる。

タイムパフォーマンスという行動原理は、世帯形成とともに、なかでも、女性で子どもがいる場合に、意識せざるを得ないものとなっている。仕事と家庭の両立が進むことにより、時間の使い方において効率性を重視する考え方が広がることになる。

第7－8図 日ごろの生活でタイムパフォーマンスを意識しているか
（タイムパフォーマンス：なるべく無駄なことはせず時間を効率的に使うこと）



（３）タイムパフォーマンスを意識している場面

「いつも意識している」「たまに意識している」と回答した人（全回答者の64.3%、4,990人）には、“タイムパフォーマンスを意識している場面についてお書きください”とたずね、具体的な場面についての記入をお願いしている。

記入欄には3,146人の回答が得られた。分析にあたっては語の除外（例えば「時間」のようにこの設問では特徴のない語、「思う」などの一般的な語）、複合語の抽出（例えば「通勤」と「時間」をあわせた「通勤時間」）を行っている。分析の対象とした語の総数は18,302（延べ出現回数）で、出てきた語の種類数は2,390である（第7-5表）。¹

第7-5表 タイムパフォーマンスを意識している場面への記述状況と分析対象とした語の数

抽出語（使用）	語の取捨選択後			
	43,562 (20,565)	40,514 (18,302)		
異なり語数（使用）	2,736 (2,344)	2,779 (2,390)		
文	3,608	-		
段落	3,436	-		
H5	3,146	-		

抽出された語のうち出現回数の上位を示したものが第7-6表である（出現30以上の語を掲載。文書数によるカウントとしているので30人以上が記載した語である）。出現が最も多い語は「仕事」で、「家事」「意識」「業務」と続いている。

第7-6表 タイムパフォーマンスを意識している場面 頻出語（出現数 30 以上）

抽出語	文書数 (h5)	抽出語	文書数 (h5)	抽出語	文書数 (h5)	抽出語	文書数 (h5)	抽出語	文書数 (h5)
仕事	493	効率化	77	計画	51	掃除	42	前	34
家事	424	早い	77	残業	51	順番	40	用事	34
意識	256	活用	76	多い	51	睡眠時間	40	使用	33
業務	236	帰る	76	動画	51	育児	39	時短	33
効率	178	タスク	68	平日	50	趣味	39	場合	33
無駄	169	減らす	68	家	49	短縮	38	家電	32
作業	163	見る	65	行く	49	スマホ	37	勤務	32
行動	149	スケジュール	63	使い方	49	帰宅	37	同時に	32
自分	109	立てる	62	移動	48	仕事中	37	勉強	31
決める	102	確保	60	買い物	48	出来る	37	良い	31
予定	98	通勤時間	58	進める	47	複数	37	リスト	30
休日	94	移動時間	57	料理	47	心がける	36	活動	30
優先順位	90	寝る	57	時間内	45	洗濯	36	処理	30
効率的	88	済ませる	54	生活	45	定時	36	通勤	30
常に	88	準備	53	プライベート	44	起きる	34		
作る	84	取り組む	52	食事	44	休み	34		
朝	78	帰宅後	51	必要	43	作成	34		

1. 本節での分析にあたっては樋口耕一氏が開発した KH Coder を活用している。

(4) 記入内容のカテゴリー

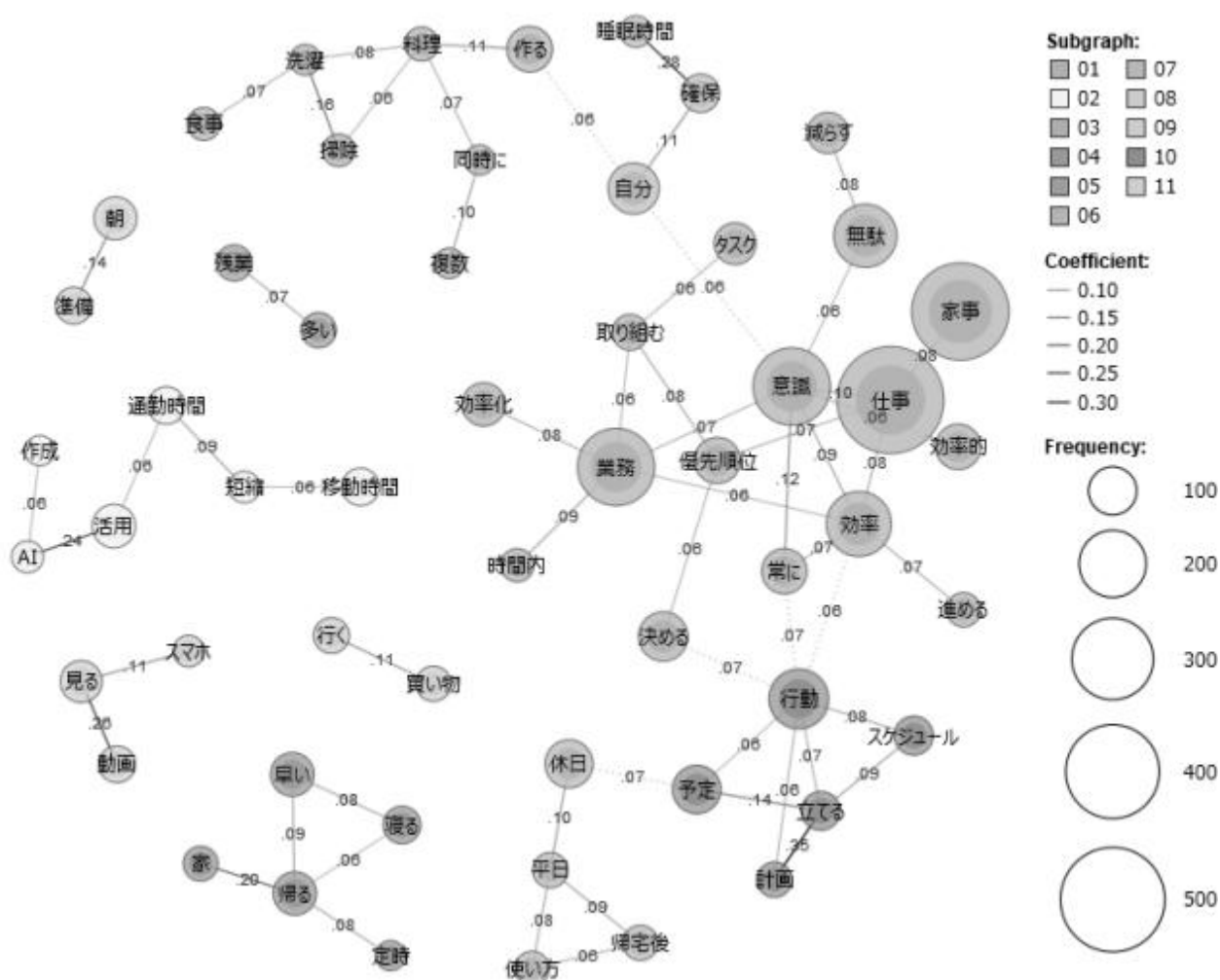
頻出語をみると、「仕事」「家事」といった生活の場、「休日」「朝」「通勤時間」などの生活の時間、「意識」「効率」など向き合い方に関する語が混在している。テキストマイニングの分析手法のひとつである共起ネットワークを使うと出現している語同士のつながりをもとに記入内容をカテゴリー化できる。線でつながっているものは、同じ記入のなかに出現することが相対的に多いものであり、係数は同時に出現している度合いを示している（Jaccard係数。最大は1、最小は0である）（第7－9図）。

11のカテゴリーができているが、記入の順にみると、主なものは以下のように整理できる（出現数35以上を分析の対象としている）²。

01：「仕事」「家事」の「効率」を「意識」

最も記入の多いカテゴリーで、「仕事」「家事」の進め方について、「無駄」をなくし、「効率」を「意識」という趣旨のものである。生活の場面としては、「仕事」「生活」のいずれかに言及しているものが多いが、その両面を意識しているものもある。

第7－9図 タイムパフォーマンスを意識している場面に関する共起ネットワーク



2. 語の○の大きさはその語が出現する文書数をあらわしている。なお、図のなかで語が表示されている位置には意味はない。

02：「移動時間」「通勤時間」を「短縮」「活用」

01のカテゴリーと比べると記入された語の数はかなり落ちるが、「移動時間」「通勤時間」をなるべく「短縮」したり「活用」したりするということである。職場に出る以上、「移動時間」「通勤時間」をなくすことはできないが、これをなるべく活用したいと考えている。

03：「料理」「洗濯」などを「同時に」進める

01のカテゴリーと重なるが、家事を「複数」「同時に」進めることが意識されている。

以下、04以降は以下のようなカテゴリーである。

04：「定時」に「家」に「帰る」

05：「残業」

06：「休日」や「平日」の「帰宅後」の時間

07：「睡眠時間」の「確保」

08：「スマホ」や「動画」の見方

09：「買い物」

10：「スケジュール」を「立てて」「行動」する

11：「朝」の「準備」

「〇〇をやめる」のように活動を減らしていくというよりも、仕事、家事など、生活上の必要があるものについて、なるべく優先順位や予定を決めることで、無駄をなくしていくことが志向されている。

（５）性別・年齢とタイムパフォーマンスとの関係

タイムパフォーマンスを意識する場面は、性別などの属性による特徴もある。対応分析を用い、性別・年齢と意識する場面との関係をみたものが第7-10図である。対応分析は投入する区分（ここでは性別・年齢）に特徴的に現れる語をみていく分析手法であり、原点（0，0）付近には、区分との間に特徴がない語、原点から離れるほど区分に特徴的な語が配置される。この図では、原点付近にはほとんど語がないので、特徴的でない語はあまりない。この結果をみると、横軸（成分1）は年齢で、右にいくほど年齢の高い人が記入している語、縦軸（成分2）は性別で、下は男性、上は女性がより記入している語と読み取ることができる。性別や年齢によって記述の内容に特徴があるということである。24歳以下、30歳以上の男女それぞれに以下のような傾向がみられる³。

24歳以下などの若い年齢層：プライベートでのタイムパフォーマンス

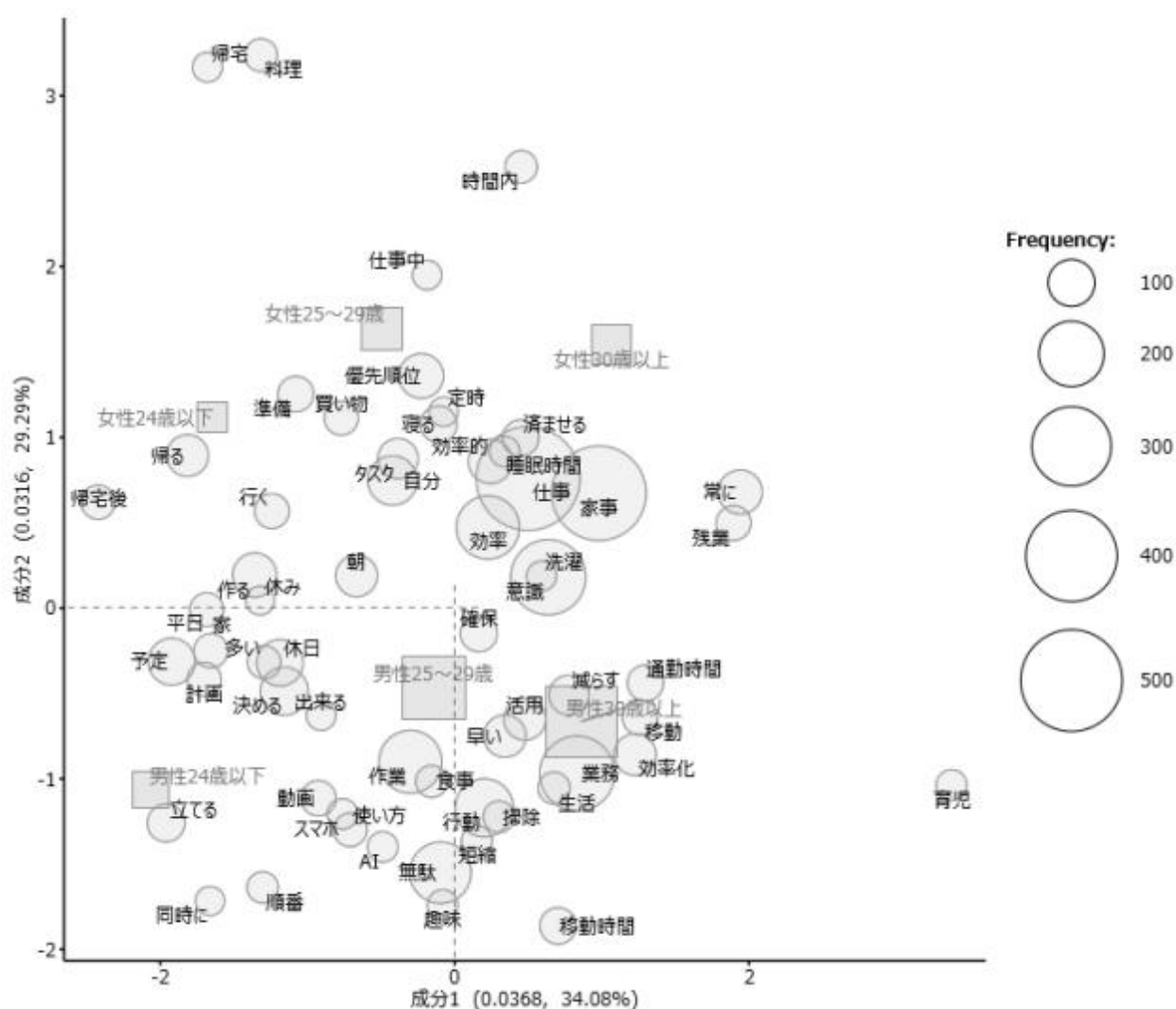
「帰宅後」「家」「休日」など仕事以外の場面でのタイムパフォーマンスを意識している。ただし、性別により意識している場面の違いがある。女性は「料理」「買い物」の場面についての記入がみられる。一方、男性は、「スマホ」「動画」という語があり、また、「同時に」も特徴的な語となっている。スマートフォンは幅広く使われているが、その使用でタイムパフォーマンスを意識しているのは主として若い年齢層の男性である。

3. 各属性（男性24歳以下、女性24歳以下など）が存在する位置が□で表示されているが、これは便宜的なものである。対応分析では結果の見やすさを重視し、□は実際の位置よりも原点に近いところに表示されている。原点から□のある方向に離れれば離れるほど、その□の属性に特徴的な語であることを意味する。男性30歳以上を例にみると、□の周辺にある「業務」「効率化」よりも、離れた位置にある「育児」のほうが結びつきが強いことになる。

30歳以上などのより高い年齢層：仕事と家事との両立のためのタイムパフォーマンス

「仕事」「家事」「通勤時間」などが原点よりも右側に出てくる。生活上、仕事上の必要事が増えていくためにワーク・ライフ・バランスを意識せざるを得なくなっていることが読み取れる。タイムパフォーマンスを重視する人が年齢とともに増えていく要因といえる。性別による違いをみると、男性は「業務」「移動時間」といった語のほか、「育児」も男性のほうと結びついている。一方、女性は「家事」「時間内」「定時」「睡眠時間」などが特徴的な語となっている。どちらかといえば、男性は仕事の中身（業務）や仕事に関連する移動（通勤時間）での無駄をなくしていくことを意識している。一方、女性は仕事の中身（業務）よりも仕事は時間内に終わらせることを意識している。また、「睡眠時間」もどちらかといえば女性に特徴的な語となっている。男性よりも「睡眠時間」の確保が難しくなっていることも背景にあると考えられる。

第7-10図 タイムパフォーマンスを意識している場面に関する対応分析（性別・年齢との関係）



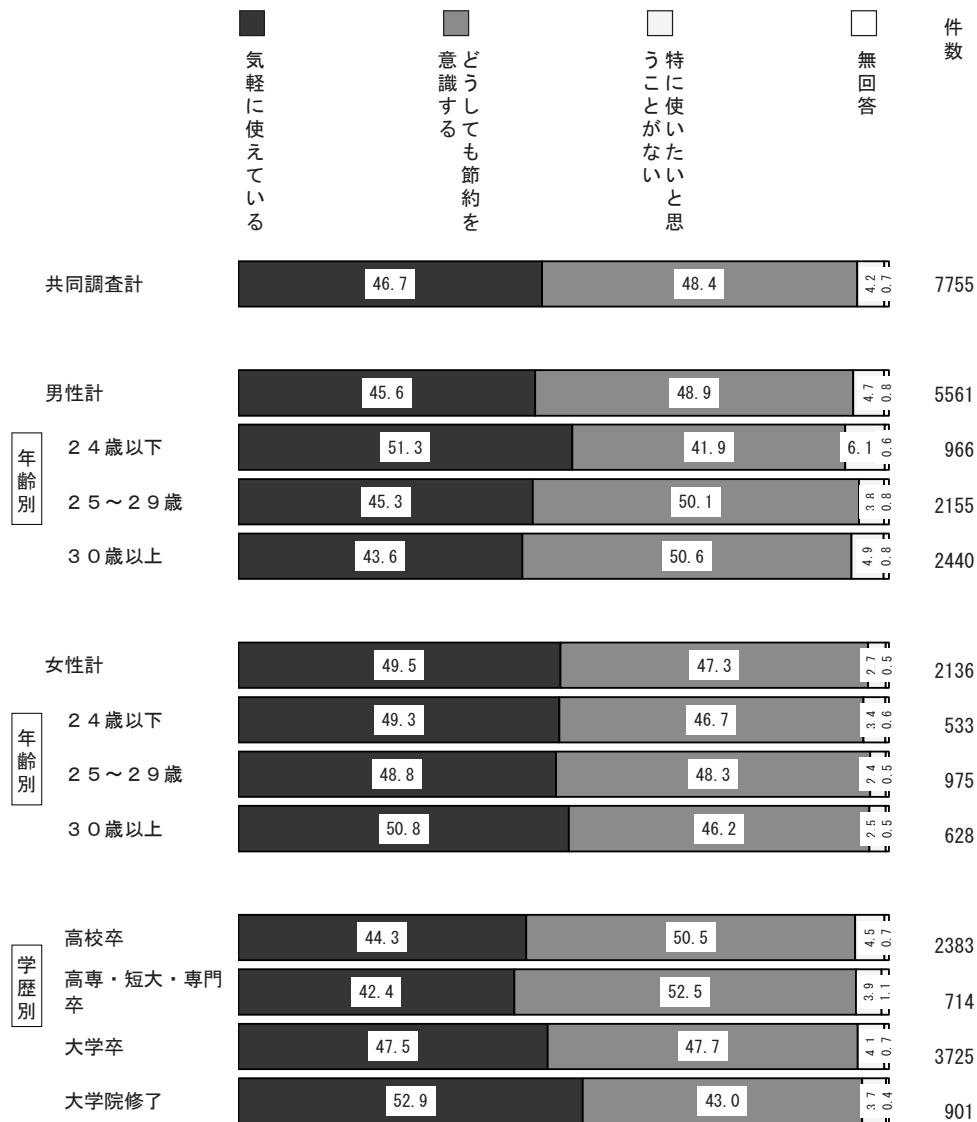
4. 支出の自由度と重視する使い方

(1) 支出の自由度

支出の自由度について、“日ごろ、お金を使いたいと思ったモノ、コトに気軽にお金を使えていますか”とたずねると、「気軽に使えている」が46.7%、「どうしても節約を意識する」が48.4%である。支出の自由度についての現状評価は分かれている（第7-11図）。

性別年齢別、また、学歴別にみても、現状評価が分かれていることは共通している。

第7-11図 日ごろ、お金を使いたいと思ったモノ、コトに気軽にお金を使えているか



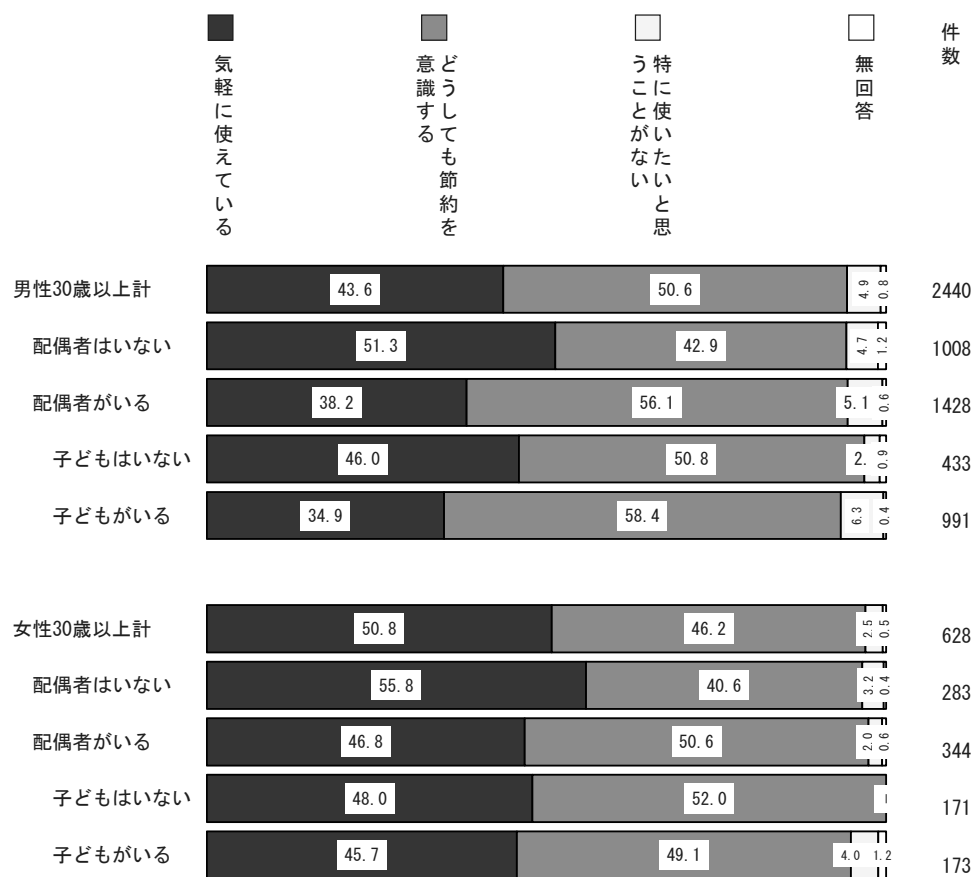
支出の自由度の現状評価は世帯形成の状態によって異なる。

男性30歳以上の「気軽に使えている」は、配偶者はいない（51.3%）や配偶者がいる（子どもはいない）（46.0%）では5割前後あるが、配偶者がいる（子どもがいる）は34.9%と少ない（第7-12図）。

女性30歳以上は、配偶者がいなかった場合には「気軽に使えている」（55.8%）が多い。「配偶者がいる」ケースをみると、男性と違い、子どもがいる場合であっても「気軽に使えている」はほとんど減少しない。

先にみた時間の自由度では、女性は子どもの有無による影響が大きく、ここで取り上げたお金の自由度では、男性の子どもの有無による影響が大きい。

第7-12図 日ごろ、お金を使いたいと思ったモノ、コトに気軽にお金を使えているか



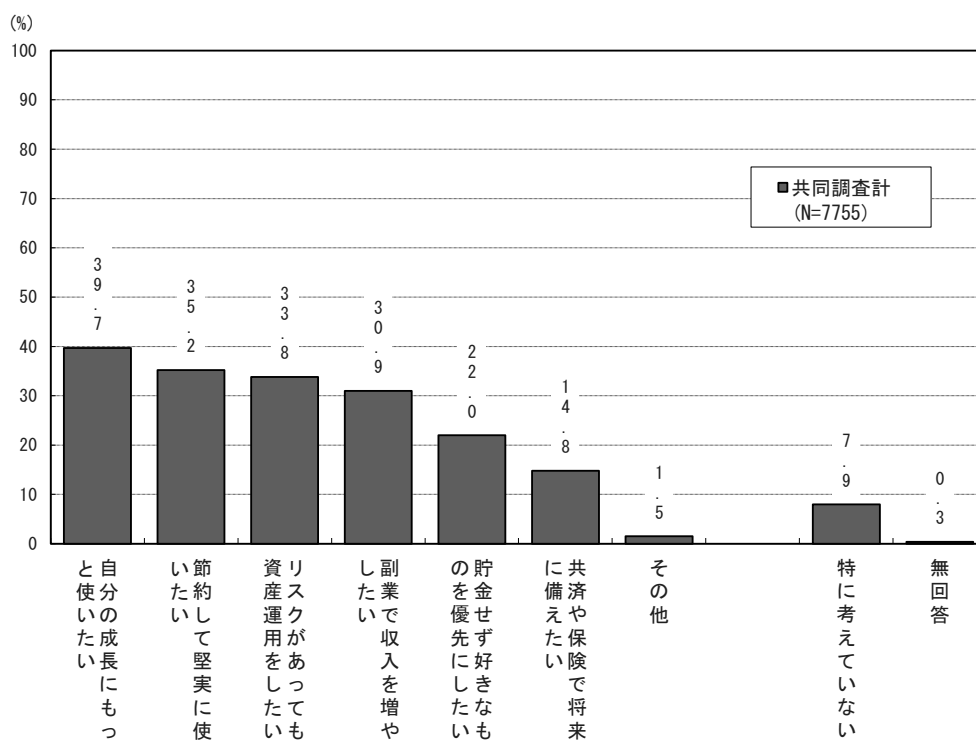
（２）今後の重視する使い方・増やし方

支出の自由度についての現状評価は分かれている。今後のお金の使い方、増やし方については、どのような考えをもっているのだろうか。「その他」「特に考えていない」を含む８つの選択肢からいくつでも選んでもらった。

比率が高いほうからみると、「自分の成長にもっと使いたい」(39.7%)、「節約して堅実に使いたい」(35.2%)、「リスクがあっても資産運用をしたい」(33.8%)、「副業で収入を増やしたい」(30.9%)が３～４割で並んでいる。「節約」だけでなく、「資産運用」「副業」も同等に意識されている（第７－13図）。

他方、将来への備えという点で、「共済や保険で将来に備えたい」(14.8%)は多くない。

第７－13 図 今後のお金の使い方、増やし方として考えていること（複数選択）



今後のお金の使い方、増やし方として考えていることは性別や年齢により異なる。

性別にみると、女性は「節約して堅実に使いたい」、男性は「リスクがあっても資産運用をしたい」が多い。
このうち男性の「リスクがあっても資産運用をしたい」は高年層ほど多い（第7-7表）。

学歴別にみると、「リスクがあっても資産運用をしたい」は大学院修了で半数と特に多い。

なお、大学卒、大学院修了は、**2. 現在の自身を成り立たせているもので「運」が「プラスに影響した」と**いう回答が高校卒と比べて明らかに多かった。この自身を成り立たせているものとの関係をみると、「運がプラスに影響した」と認識している場合、今後のお金の使い方について、「自分の成長にもっと使いたい」「リスクがあっても資産運用をしたい」がより多くあげられている（性別、年齢、学歴を調整しても同様である）。現在の自身の成功を運によって理解する意識は、自己の成長の可能性への期待を高めるが、同時にリスクを許容する考え方を強める効果もみられる（第7-8表）。

第7-7表 今後のお金の使い方、増やし方として考えていること（複数選択）

		使自 分の 成長 にも つと	た 節約 して 堅実 に使 い	産 運 用 を し た い も 資	リ ス ク が あ つ て も 資	た 副 業 で 収 入 を 増 や し	を 貯 金 せ ず 好 き な も の を 優 先 に し た い	備 共 え 済 や 保 険 で 将 来 に	そ の 他	特 に 考 え て い な い	無 回 答	件 数
	共同調査計	39.7	35.2	33.8	30.9	22.0	14.8	1.5	7.9	0.3	7755	
年 齢 別	男性計	39.8	31.9	37.1	31.5	22.7	13.6	1.4	8.0	0.3	5561	
	2 4 歳以下	42.1	30.7	26.3	28.8	25.9	9.5	1.3	10.7	0.4	966	
	2 5 ～ 2 9 歳	41.9	30.0	37.8	31.2	22.6	12.9	1.0	7.6	0.3	2155	
	3 0 歳以上	37.0	34.0	40.9	32.9	21.5	15.8	1.7	7.4	0.3	2440	
年 齢 別	女性計	39.5	44.0	25.2	29.5	20.3	18.2	1.8	7.3	0.4	2136	
	2 4 歳以下	41.5	46.0	17.4	25.9	23.1	13.1	0.6	6.6	0.8	533	
	2 5 ～ 2 9 歳	40.7	44.0	25.4	31.0	21.7	18.3	1.8	7.4	0.3	975	
	3 0 歳以上	36.0	42.4	31.5	30.3	15.8	22.5	2.7	7.8	0.2	628	
学 歴 別	高校卒	36.0	32.0	27.5	33.4	24.3	12.7	1.5	10.0	0.4	2383	
	高専・短大・専門卒	34.3	33.6	30.8	33.3	23.8	16.1	1.7	8.5	0.3	714	
	大学卒	42.7	36.9	34.4	29.2	20.9	16.0	1.4	6.8	0.4	3725	
	大学院修了	41.1	37.7	50.6	29.7	19.1	14.2	1.7	6.4	...	901	

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上少ない

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上多い

15.0 「共同調査計」より15ポイント以上多い

第7-8表 今後のお金との使い方、増やし方として考えていること（複数選択）

	自分の成長にも 使いたい	貯金せず好きな ものを優先にしたい	リスクがあっても資 産運用をしたい	副業で収入を増や したい	共済や保険で将来 備えたい	節約して堅実に使 いたい	その他	特に考えていない	無回答	件数
共同調査計	39.7	22.0	33.8	30.9	14.8	35.2	1.5	7.9	0.3	7755
運がプラスに影響	45.8	22.4	37.0	31.4	15.1	33.6	1.5	5.9	0.2	3518
どちらともえない・マイナスに影響	34.7	21.7	31.2	30.7	14.6	36.6	1.5	9.6	0.2	4212

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上少ない

5.0 「共同調査計」より5ポイント以上多い

15.0 「共同調査計」より15ポイント以上多い